

ナカヤシキ 中屋敷 加賀藩は初め江戸に於いて中屋敷を有しなかつたから、前田綱紀の時祖父利常は光高の後室清泰院を通じて幕府に請ひ、市ヶ谷門外の牛込邸を之に當てた。その年紀は詳かでないが、清泰院の未亡人であつたのは、正保二年四月から明暦二年九月の間である。清泰院の物故した翌年藩は之を幕府に納れ、駒込邸を得て中屋敷とし、その儘藩末に及んだ。明治元年十二月廿四日木挽町栗地なる元稻葉美濃守の上屋敷を賜ふに及び、之を上屋敷と稱し、本郷邸を中屋敷としたが、三年五月栗地邸を返上し、八月本郷を官邸と稱したから、中屋敷の稱はなくなつた。

ナカヤジヘエ 中屋治平 能美郡小松松任町の人。或は家の中富ともいうた。浦川系の算法を神谷八左衛門から受け、文政の頃徒弟に教へた。明治十三年六月廿八日歿。

ナガヤダイガク 長屋大學 初名半左衛門。文祿二年前田利長に仕へて千四百石を領し、足輕頭となり、慶長十六年致仕し、養老料二百石を受け、十九年十月大坂の役の起つた時七尾城に留守を命ぜられた。寛永八年歿。子孫藩に世襲する。

ナカヤチ 中谷内 鳳至郡七浦庄に屬する部落。村名由来書に、元和の頃は小瀧・大窪・串杓屋の三村であつたが、後に中谷内に合併したとある。併しその後も小瀧と櫛比屋とは中谷内の枝村として名を存してゐた。

ナカヤナガイヘ 中屋長家 能美郡小松の人で、曾工である。八間張の筋兜があつて、その銘に『以和鐵一鍛南鐵一中屋長家作寛文第十一亥六月吉日』とあつた。

ナカヤナガツク 中屋長次 能美郡小松の人で、曾工中屋長家の後系である。

ナカヤナガミチ 中屋長途 能美郡小松の人で、曾工である。その作に六十二間の筋兜があつた。

ナガヤノリタダ 長屋矩忠 通稱平左衛門。七郎右衛門。七郎右衛門吉道の子。寛文四年父の祿八百石を襲ぎ、宮腰町奉行・御作事奉行に歴任し、元祿六年御馬廻番頭として飛騨高山に在番し、寶永三年十一月歿した。

ナカヤヒコエモン 中屋彦右衛門 代々彦右衛門と稱し、金澤家柄町人の一人で、町年寄を勤めた。寛文十年前田綱紀から、侯家傳來の紫雪・烏犀圖・普婆萬病圓の秘方調合を命ぜられ、爾後歴世相傳へて今に至つた。明治十一年十月明治天皇北陸御巡幸の際、その邸を行在所に當て賜うた。

ナカヤマ 中山 河北郡金浦郷に屬する部落。明治中に至つて戸室中山と改めた。金城深秘録に、慶長の頃前田利長・利常屢こゝに臨駕あり、今その所を御座山といふとある。

ナカヤマ 中山 河北郡英田郷に屬する部落。

ナカヤマ 中山 羽咋郡邑知庄に屬してゐたといふ。應永廿八年十二月廿九日祐信の判書に、『能登國羽咋郡邑智庄内中山三年八郎右衛門尉跡書に、依有由緒被宛行天野彦次郎慶景者也云々。』とある。この中山は、今何れとも知り得ぬ。

ナカヤマ 中山 羽咋郡土田庄に屬する部落。明治中に至つて上中山と改めた。

ナカヤマ 中山 羽咋郡熊野方郷に屬する部落。

ナカヤマカズヘ 中山主計 石川郡宮腰の人。天正十一年柳瀬の戦後、前田利家の羽柴秀吉に従うて加賀に進入した時、不逞の徒その前途を妨害しようとしたので、主計は之を利家に訴へた。利家乃ちその家に宿し、主計をして悉くその徒を捕へしめて之を誅し、次いで金澤に入つた。後利家は主計の庭前に松數株を植ゑ、又己の肖像を興へたと傳へる。子孫世々主計の名を襲ぎ、藩侯の宮腰に遊ぶ時は、必ずその家に休憩した。

ナカヤマキヨサネ 中山清實 通稱武士郎。義右衛門。寛政七年養父儀太夫の遺知八十石を襲いで組外に列し、宇出津山奉行・表御納戸奉行・能美郡御代官に歴任し、天保十一年十二月致仕した。

ナカヤマゴウ 中山郷 鹿島郡に屬し、藩政時代では、詳しくは北三郷之内中山郷といひ、岡・上湯川・鶴・浦・三室・殿の五ヶ村があつた。

ナガヤマヘイダ 永山平太 初名平八、また平に作り、諱は政時、明治の後平太と改めた。亥軒・椿園はその號である。本姓岸氏、出で、永山氏を嗣いだ。幼にして學を好み、藩儒西坂錫・大島桃年に就きて業を習ひ、天保十二年江戸に抵り、安積良齋に師事して洛閩の學を受け、兼ねて力を辭章に肆にし、大槻磐溪・栗本匏庵・佐久間象山等と友善であつた。居ること數年の後郷に歸り、遂に明倫堂の教職に列した。安政三年前田齊泰の命じて欽定四經を校刊せしめた時、平太もその事に與り、又諸儒と共に史記考異を選んで齊泰の嘉獎する所となつた。文久三年平太齊泰に京師に從行し、朝紳に謁して稱説した爲に、人の構へる所となり、四月藩に歸つた後讒を得て家に錮せられた。明治元年時局一變するに及んで平太の讒解け、三月朝廷の列藩に命じて士を貢せしめた時その選に與り、集議院に待詔して大事を參決したが、五月職を免せられて還り、藩の文學に列し、次いで十一月金澤藩少屬に任じ、漢學教師となり、置縣以後中學・師範兩校に教へ、晩年中風を患へ、明治十二年八月六十五歳を以て歿した。その著に亥軒文稿附詩稿がある。

ナカヤマキヨウ 中山季喬 諱は彭、通稱を紙屋久兵衛といひ、金澤横堤町の紙商で、書を岸駒の門に學び、李喬・卓園亭・齋賞翁又は瓶笙庵と號した。嘉永五年二月廿九日五十一歳にて歿。

ナカヤマリドウ 仲山禮洞 安政年間版の山中温泉繪圖に仲山禮洞の署名がある。金澤野町三丁目に住したといふ。

ナガヤヨシツク 長屋吉繼 通稱數馬・七郎右衛門。慶長八年新知二百石を受け、後父大學の遺知を分かつて千二百石となり、御馬廻に任じ、大坂再役に青屋口で首一つを獲た。寛永十六年歿。

ナガヤヨシミチ 長屋吉道 通稱七郎右衛門。七郎右衛門吉繼の子。元和五年新知三百石を受け、後八百石に至り、高岡町奉行・足輕頭・金澤町奉行に歴任し、寛文四年歿した。

ナガラ 長柄 河北郡金津庄に屬する部落。明治中高松新に併合せられた。

ナガラカンガク 長柄觀岳 河北郡高松眞宗東派眞証寺の住職。速瀨院と稱した。もと羽咋郡新保正行寺に生まれ、威光院神祇に學び、明治十一年十二月歿。大正十一年嗣講を贈られた。

ナカ